

民法（配点 60 点）

【問題】

以下の各【設例】を読んで、【設問 1】、【設問 2】に答えなさい。

【設例】

2025 年 7 月 1 日、A は、所有する甲パソコン（以下、「甲」という。）が壊れたので、パソコンに詳しい友人 B に、「データの回復はできるのか？修理に出すと個人情報が漏れたりしないのか？」等の相談したところ、「平気だよ。僕ならデータの完全回復もできるし、情報保護も厳守できるから、5 万円で修理してあげるよ。」と言われたので、そのまま B に修理をお願いした。

同年同月 7 日、修理を終えた B は A に「修理完了」の連絡を通知したが、A はすぐに修理代金の工面ができなかったため、B が自由に甲を使ってよいことを条件に、B に支払の猶予を求めたところ、B は、甲のアプリに人気のゲームが入っていたので、大喜びで A の申出を承諾して甲を使用していた。

ところが、その後、データのバックアップはクラウドを介してできることを知った A は、最新のパソコンが欲しくなったので、C に甲を 15 万円で売却し、その旨を B に伝えたが、そのまま、B は甲の使用を継続した。

【設問 1】（配点 40 点）

C が B に甲の引渡を請求した場合に、B は、A に対する修理費用を確保するために、甲に対するいかなる権利を主張することができるか。法的な根拠とその成立要件を検討して説明しなさい。

【設問 2】（配点 20 点）

B は、A の承諾を得ているが C の承諾を得ていないで甲を使用していることは、法律的にどのような意味を持つのかを検討しなさい。

以上